



明るく たくましい 明世の子

ビカリア

令和5年度
瑞浪市立明世小学校
NO. 7
R5. 9. 29

スローガンに込められた思い

結団式でビカリア委員が、運動会のスローガンを発表しました。そのあと、団リーダーが掛け声の手本を見せ、全校で「オー!!」と氣勢を上げました。どの子も笑顔です。全校児童が大きな声を一斉に出すのは何年ぶりだろう、声をそろえて出すことは気持ちよく、楽しいことなんだな、と思いました。

スローガンは『全力 力を合わせて ～心の底から叫べ～』です。ビカリア委員がこのスローガンに至るまでに考えた言葉を書いた紙を見せてもらいました。そこには「今再び 明世っ子だましい」という言葉がありました。スローガンは1年生にも伝わりやすいものを選んだため、この言葉は採用されませんでした。しかし、ここにこそビカリア委員の思いがあると考え、それを書いてもらいました。



コロナがおさまって、全校で運動会が再びできることで、私たち明世っ子の気持ちが高まって、全力で挑んでやる!!という思いで声を出してほしいと思いました。5・6年生は4年ぶりに全校でできる運動会なので、勝っても負けても、がんばれてよかったと思えるようにしたいと思います。大きな声を出すことは、少しつらいこともあるけど、楽しいこともあります。みんなで声を出すことは楽しいです。

「明世っ子だましい」は、心の底から、何かに全力になって真剣になる、たましいを燃やすということです。1・2年生のころ、全力で叫んだことを思い出し、もう一度たましいを燃やす運動会にしたい、と思って考えました。

コロナ禍中の生活は、子どもたちの熱い思いや、声を出す楽しみを奪っていたのだと思い知らされます。子どもたちの考えたスローガンは、再び運動会ができる喜びと、やる気に満ち溢れたものだと思います。「ゴーゴーゴー」の歌が下校中に歌われるほど、盛り上がっています。騒音と言わず、温かく見守ってください。

あきよ山を再び

9月10日にPTAのボランティアによる環境整備作業がありました。グラウンドの草取り、登校坂や北側広場やプール回りの草刈り、樹木の剪定などを行いました。草を片付けながら、保護者の方の話を聞きました。「小学生の時、あきよ山を走って一周できた。基地を作った。登ったり滑ったりした。」この話を聞いたとき、体験は子どもを育てることを思い出しました。基地を丈夫にするために三角形を生かすこと、滑り落ちない角度で斜面に立つことなど、理科や建築につながる角度を感覚的につかんでいたのではないかと思います。

ちょうど、中日新聞(9月20日)に「子どもの体験格差 深刻」という記事が掲載されました。子どもたちの文化・自然体験が、子どもたちの心身の成長を促す。体験の機会の格差が深刻な状態に対処が必要だ、という内容です。文部科学省の委託調査でも「小学校の頃の体験がその後の学習意欲を高める効果があるとした」とあります。

明世小学校には「あきよ山」がある。これを活用して体験を充分させたい。今は鉄塔までなんとか歩くことができ、どんぐりもいっぱい拾えます。今後、あきよ山の再生を目指したいです。そこで、擦り傷ぐらいなら気にしないで遊び続けるほど、夢中になって遊んでほしいです。

